

## 高知県名野川石灰石鉱床

清島 信之\*

## On the Nanogawa Limestone Deposits, Kōchi Prefecture

by

Nobuyuki Kiyoshima

Abstract

Nanogawa limestone deposits are situated in the southeast part of Mt. Nakazu (1,540 m above the sea level) near by the border of Kochi and Ehime prefectures. The deposits consist of three lying beds alternating with the black schist of Upper Paleozoic, and extending 3 km from east to west and 1 km from north to south.

The roughly estimated reserves are 280,000,000 tons.

## 要 旨

高知・愛媛両県境近く、中津山の南東方尾根に分布する石灰岩岩体を名野川石灰石鉱床と呼ぶ。当鉱床は上部古生層中に黒色千枚岩層と互層する3層の横臥した鉱体からなる。

その分布は東西3 km、南北1 kmを占め、良質かつ四国管内屈指の鉱床規模であることが判明した。

## 1. 緒 言

近時、国内石灰石資源に対する権利確保の動きは活発で、四国地方においても沿海部はすでに余すところなく、背梁山地中に賦存する鉱床もほとんど鉱業権の設定あるいは鉱区の出願申請が行なわれ、本鉱区にも昭和36年度出願申請が行なわれている。鉱床は高知・愛媛両県境近く地理的に不便な辺境に位置し、既刊の地質調査所発行20万分の1高知図幅、および高知県商工観光課発行20万分の1高知県地質産産図によれば鉱床は東西3 km、南北1 kmの広域に表現されている以外は詳細な報告資料がない。本調査は、鉱床規模、品質などを明らかにし、今後の石灰石資源開発に資せんとする目的をもつて実施した。

## 2. 鉱 区 関 係

鉱区所在地：高知県吾川郡吾川村大字名野川および愛媛県上浮穴郡柳谷村大字中津

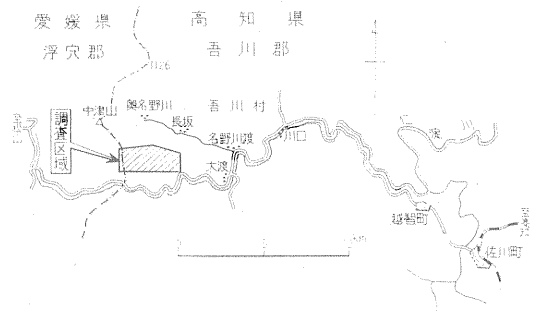
面積：27,240アール

鉱種：石灰石

試掘出願人：高知県南国市白木谷99番地 野村純一

## 3. 位置および交通

鉱床は高知・愛媛両県境近く、主として高知県管内に位置し、鉱区南方には高知一松山間を結ぶ国道33号線を



第1図 位置図

通ずる。高知方面からは高知一松山間の国鉄バスを利用し、名野川下車、これより北西方に約5 km、溪谷沿いのトラック道路を遡り長坂に至る。長坂より鉱区内へは急坂を辿り旧名野川鉱山(銅山)跡を経て登はん約40分を要する。

## 4. 地形および地質概説

愛媛県面河溪に源を発する仁淀川は愛媛・高知両県境に聳える中津山(1,540.5m)の西麓から南麓を迂曲し東流して高知県土佐湾に注ぐ。仁淀川が両県境にかかるころより佐川盆地に入る間は屈曲はなほだしく兩岸の地形は急斜面をなして切り立つた急崖を形成する。

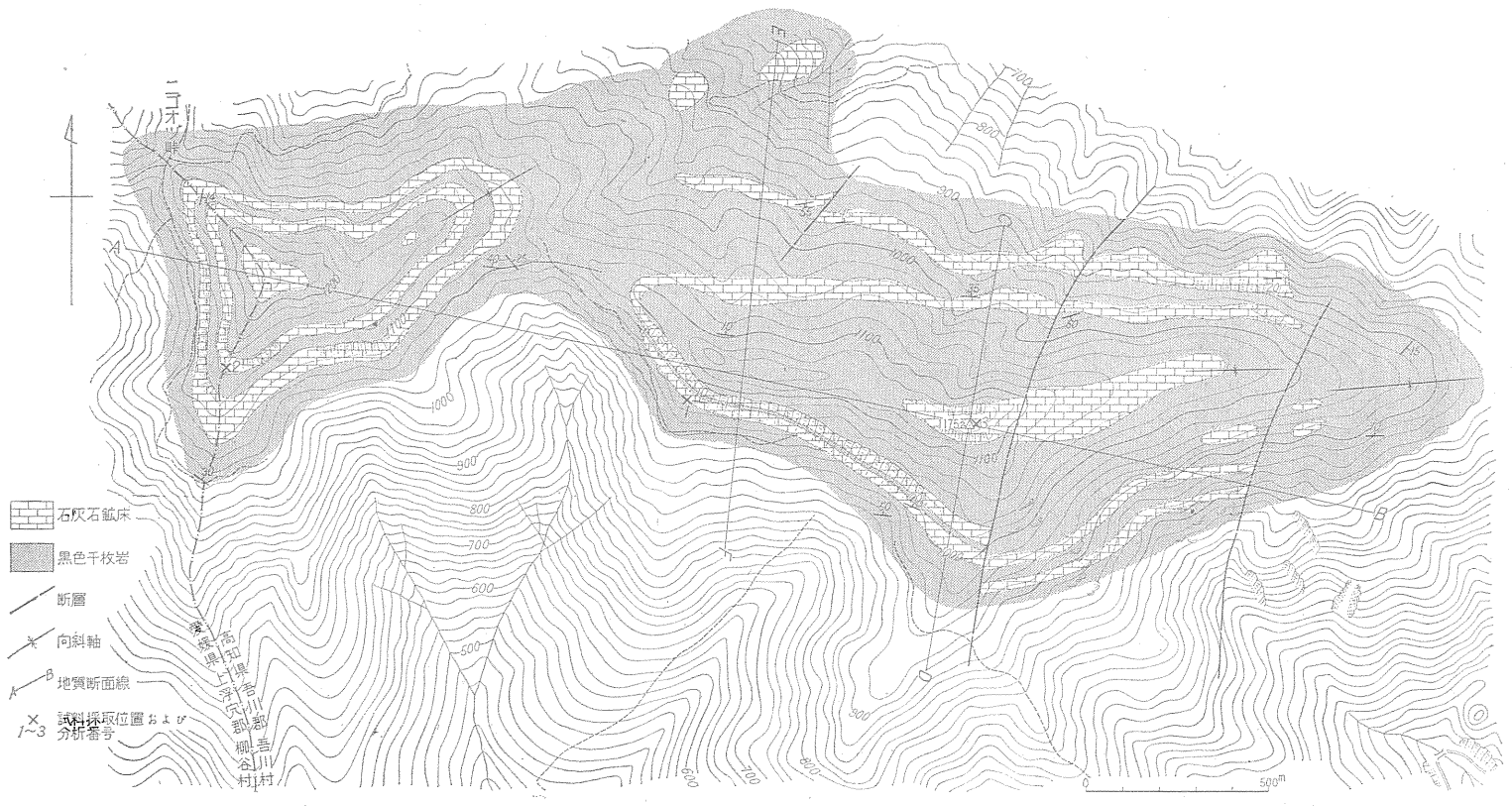
鉱床は中津山の尾根が南東方に延びて標高1,175.2m峰に連なる陵線沿いに東西3 km、南北1 kmの範囲を占め、石灰岩露頭は断崖をなすためその分布は遠くから容易に観察することができる。

地質は上部古生層に属し、下部は緑色千枚岩、上部は黒色千枚岩および石灰岩で構成される。

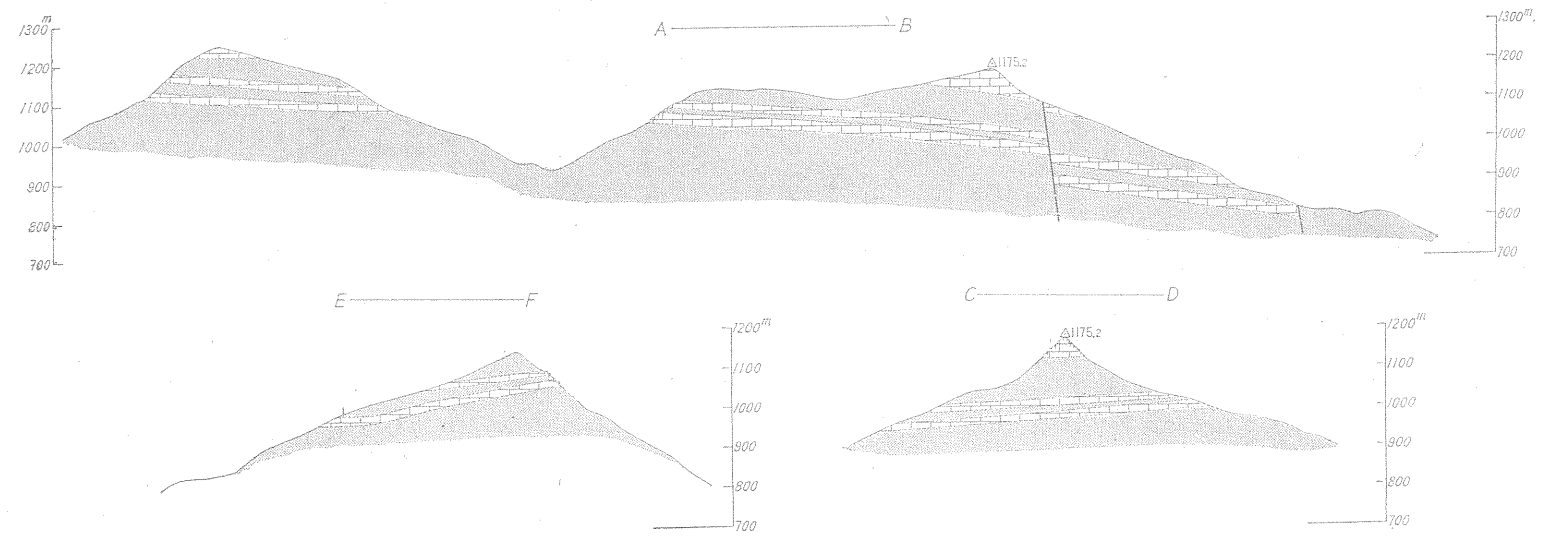
緑色千枚岩層中には旧名野川鉱山により稼行された別子型含銅硫化鉄鉱床を胚胎し、石灰岩層は黒色千枚岩層中におもな3層がある。

地層の一般走向は東西、傾斜は10~50°Nを示し、山

\* 福崎駐在員事務所



第 2 圖 名野川石灰石鈺床圖



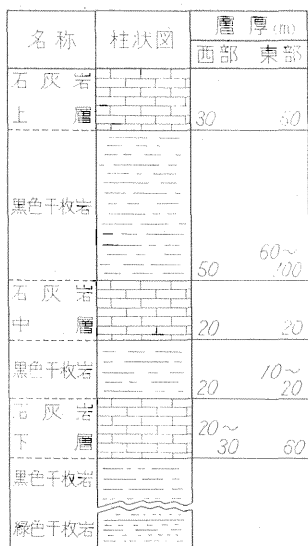
第 3 圖 地 質 斷 面 圖

麓低地では急傾斜するが山頂部では緩やかとなる。したがって山頂部近く、横臥に近い緩傾斜をなす3層の石灰岩露頭は鉢巻状に分布する。構造は比較的単調であるが、鉱区東半部は南北に近い断層(推定)および東西軸で僅かに東方に沈んだ向斜構造により地層は局部的に変位し、傾斜も反転して南となる場合がある。

### 5. 鉱床

石灰岩層は黒色千枚岩層を上下盤とし、おもな3層が分布する。その分布は地形的に三角点 1,175.2m峰の東地区と鞍部を距てこれと向かい合う西方の 1,220m峰の西地区に分けられ、前記のとおりおの鉢巻状に山頂部近くを圍繞する。

模式柱状図に示すとおり石灰岩層の上下盤はいずれも黒色千枚岩で、両者の境界は鮮鋭に移化する。東地区は南北性の2断層および東西褶曲による地層の擾乱があり、さらに北斜面においては地形の傾斜と下位の石灰岩層の傾斜がほぼ一致し、かなり不規則な分布を示す。西地区は典型的な鉢巻状累層を示す。



第4図 模式柱状図

今回は調査の日程上、断層より東部延長についての露頭追跡は行なわなかったため鉱床東端の形態は不明であるが、断層以東には懸崖をなす露頭は認められずおそろくほどなく尖滅するものと思われる。

鉱床は東地区中央部で最も肥大するが、全体にかなり膨縮がある。以下各層の分布について述べる。

#### 5.1 下層

西地区ではほとんど水平に近く、南斜面より西斜面にわたり懸崖をなした好露出地があり、北側ではわずかに北東方に沈んだ向斜軸で北東方に傾斜し、層厚は肥大部で30m、平均20mである。東地区に移り厚さは漸次肥大

し三角点 1,175.2m峰の南斜面では60mに達する。北斜面では地形の傾斜と本層の傾斜がほぼ一致し、山麓に向かつて北斜面に点々と島嶼状に残留した小分布がみられる。鉱床東端は前記のとおり不明である。

#### 5.2 中層

西地区では規則正しく下層の上位に層間距離20mを置いて1,220m峰頂部近くを圍繞し、東地区でも下層とほぼ同様な配列を示す。東地区南斜面では下層との層間距離は10mと狭ばまり、両者はあたかも同一層として100m近い絶壁をなし、登はんは困難である。

#### 5.3 上層

本層は山頂部を占めるため上限は不明で、三角点 1,175.2m峰頂部では50mの懸崖をなして屹立する。東部延長は断層により漸次東方に向かつて低下し、さらに東西向斜構造により南東斜面に不規則な配列を示す。この南東斜面に露出する小岩体はあるいは上層ではなく、中層と上層間のレンズ状鉱体の発達したものかとも推測される。

## 6. 品位および鉱量

### 6.1 品位

白色ないし灰白色を呈し緻密質で、ときに灰白色部と白色部とが細かい縞模様をなす。採取試料は代表的なものとして次の分析結果を得たが、品質は良質である。

分析結果表

試料番号	CaO (%)	MgO (%)	Fe <sub>2</sub> O <sub>3</sub> (%)	Al <sub>2</sub> O <sub>3</sub> (%)	SiO <sub>2</sub> (%)	Ig. loss (%)
1	54.60	0.53	0.03	0.04	0.67	43.45
2	55.00	0.49	0.02	0.03	0.17	43.62
3	54.94	0.65	0.04	0.06	0.19	43.50

分析: 阿部喜久男

### 6.2 鉱量

単一鉱区として鉱量は次表のとおり管内では大規模なものに属する。鉱量は概算で開発の見地からはなお採掘率、安全率を考慮すべきで単に鉱床規模として参考的数値にとどまる。

単位: 万トン

地区 層別	地区		計
	西部	東部	
上層	117	624	741 ≒ 750
中層	1,079	4,420	5,499 ≒ 5,500
下層	2,486	19,305	21,791 ≒ 22,000
総計	3,682	24,349	28,031 ≒ 28,000

## 7. 結語

当鉱床は四国背梁山脈の南側を構成し、四国地方の石

高知県名野川石灰石鉱床（清島信之）

灰石資源として重要な地位を占める上部古生層中の石灰石鉱床に属する。

鉱床は山頂部近くを圍繞して横臥する3層が賦存し、鉱量は総計2億8千万トンに達する管内としては屈指の規模であることが判明した。

品質の点も珪酸・マグネシウム・アルミナ分の含有が

きわめて低く良質である。資源的価値としては地理的に国道33号線は足下を通ずるが、高知—松山間の中に位置し、搬出の点で現状では直ちに企業の対象となりえないが、奥地開発の気運に伴ない、遠からず企業対象として検討されるべきものと思惟する。

（昭和37年3月調査）